



もののべながほ
物部長穂 (1888-1941)

明治21(1888)年、秋田県仙北郡荒川村(現大仙市協和境)の唐松神社宮司である物部家の二男として生まれた長穂は、幼少期から勉学に励み、東京帝国大学工科大学土木工学科に進学した。卒業計画では「Calculation for Designing Bantai-Bashi at Niigata」(新潟萬代橋予備設計)と題し、信濃川鉄橋計画について研究、それにより東京帝国大学を首席で卒業した。その計画を実現するかのように鉄道院に就職すると、技師として信濃川鉄橋詳細設計に携わる。

その後、内務技師となり河川改修工事などを担当、その傍らで研究にも情熱を傾けて大正9(1920)年、東京帝国大学に「構造物の振動並にその耐震性に就いて」と題する論文を提出、工学博士の学位を取得した。大正12(1923)年、震災予防調査委員会の委員を委嘱された直後の9月に関東大震災が発生し、東京・神奈川などの被災地に入り調査を実施した。こうした経験は、その後の耐震研究に生かされ、著書「土木耐震学」へとつながっている。

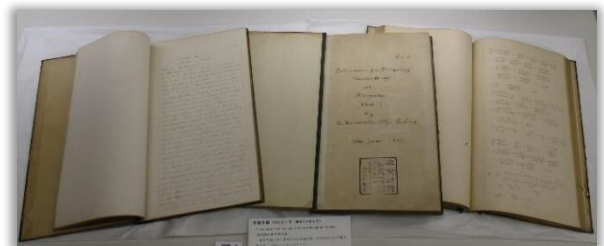
大正15(1926)年、東京帝国大学教授となり、土木研究所の2代目所長(勅任官)に抜擢され、河川関係の実務・研究を進めた。昭和8(1933)年に「土木耐震学」「水理学」を上梓、耐震構造研究だけではなく多目的ダムや治水統制など治水・水利事業の基礎を築いた。



卒業証 (明治41年7月1日)

第二高等学校(のちの東北大学教養部)大学予科の卒業証書。卒業後は、東京帝国大学工科大学へ進学した。

物部長穂関係資料



卒業計画 Vol.1~3

(明治44年6月)

Calculation for Designing Bantai-Bashi at Niigata(新潟萬代橋予備設計)。東京帝国大学に提出された卒業計画。全文英文での手書き論文で、3冊にわたる大作だった。

物部長穂関係資料



東京帝国大学卒業アルバム

(明治44年)

物部長穂が東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業した際の卒業アルバム。個人写真のほかに、大学内の勉学の様子も掲載されている。長穂の写真の下に、直筆サインあり。

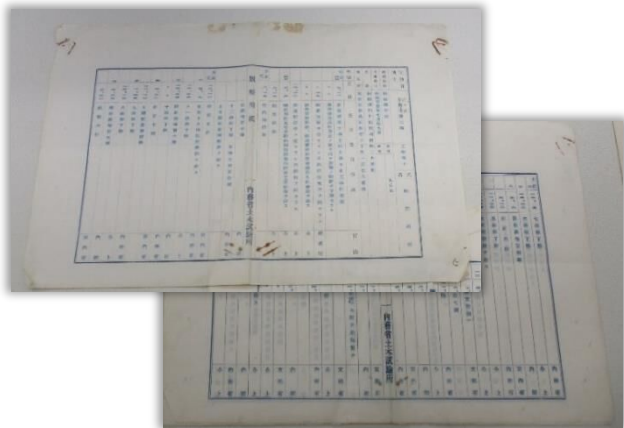
物部長穂関係資料



辞令 (大正元年8月17日)

東京帝国大学卒業後、鉄道院技手から内務技師に任じられた際の辞令書。長穂は土木試験所長(勅任官)となるまで、高等官として奉職した。

物部長穂関係資料



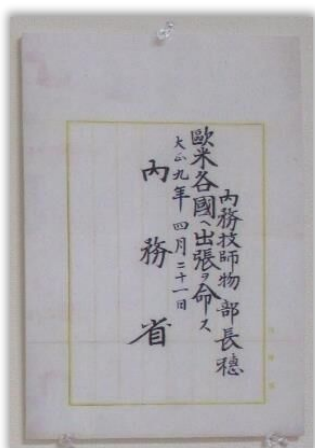
履歴書 (昭和11年)

物部長穂の履歴書。土木試験所の履歴書用紙を使用している。退官の際に作成したものか。最後の部分に手書きで履歴が追加されている。

物部長穂関係資料



自宅の書斎において机に向かう長穂の様子。背後の書棚には、研究書などがぎっしり詰まっている。物理学や土木工学のみならず、歴史学や経済学など、その範囲は幅広い。



辞令 (大正9年4月21日)

欧米視察を命じた辞令。前年に内務省土木局勤務となった長穂は、この視察によりドイツ、フランス、イギリス、アメリカの最新の技術を調査し、帰国後にその知見を多目的ダム計画論や築堤護岸工事などに生かした。

物部長穂関係資料